

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196501140		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイさいたま岩槻グループホーム		
所在地	埼玉県さいたま市岩槻区本宿126-6		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 4 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイさいたま岩槻グループホームでは、お客様に本当のご自分の家のように感じて頂けるように、思いやりと優しい言葉がけでお手伝いをしております。自分の親や身内だったら、どのように過ごしてもらいたいのか、どのように介護してもらいたいのかを職員全員で考えてケアに生かしています。
散歩は毎日行っています。午後はレクリエーションや体操などをします。また、出来る方には、家事と一緒にやっていただくなど、役割を持って生活して頂いています。今年度は、コロナ禍の合間をぬって、ひまわり畑やコスモス畑などに行ってきました。
また、敷地内に畑があり、キュウリやトマト、ブロッコリー、ピーマンなどの野菜を作っています。皆様、昔の事を思い出して楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして3年目を迎えた事業所である。開設時に、職員みんなで作った、事業所理念「笑顔溢れる、温かい家庭を築きます」を1、2階のフロアに掲示している。単に、掲示しているだけでなく、日々の支援の中で、グループホームらしい支援に努めている。利用者に、役割を持っていただき、食事では、野菜をカットする人、盛り付けをする人、テーブル拭きをする人など、みんないきいき手伝っている。洗濯も掃除も職員と一緒にこなしている。コロナ禍でも、天気の良い日は、必ず近所を散歩したり、芋ほりやひまわり畑見学などに行っている。家庭菜園があり、季節の野菜と一緒に収穫して、食卓を賑わしている。室内でのレクリエーション、テレビ体操、脳トレ体操、カラオケなど楽しんでいる。また、医療との連携でも、提携医の訪問診療の他に、法人所属の看護師が巡回してきて、健康管理に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる温かい家庭をきずきます」という理念を共有して、実践につなげている	職員と話し合い作った、事業所独自の理念「笑顔溢れる温かい家庭を築きます」を、各フロアに掲示している。日々の支援の中で、楽しい話題を職員が提供し、利用者と共にコミュニケーションを深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板なども回してもらい、地域の方と交流している	自治会に加入している。近隣を散歩しながら、挨拶を交わしたり、お花を頂いたりしている。また、地域連携室があり、婦人会や地域のサークルに会議室を貸出している。オレンジリングの講習会を実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携室を設置しており、コロナ収束後には、認知症サポーター養成講座などを開催予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍なので、書面による運営推進会議を行い、地域包括支援センターに報告している	コロナ禍なので、2ヶ月に1度書面開催している。職員で話し合い、行事や連絡事項、利用者の様子などを議事録として、家族、地域包括支援センター、民生委員、自治会長などに、手渡ししたり、郵送したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、疑問やわからない事などがあると気軽に質問させて頂いており、密に連絡をとらせて頂いている	市の担当者とは、コロナに関する情報共有をし、コロナ感染の検査キット、衛生用品の配布を受けている。地域包括支援センターとは、空室情報の提供や入居相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会があり、2カ月に1回開催している。また、年に2回以上の研修を行い、記録も残している。全職員で、グレーゾーンも含めて、身体拘束をしない介護をしている。	身体拘束禁止委員会を、管理者、フロアリーダー、計画作成担当、職員を交え、2ヶ月に1回開催している。法人本社作成の身体拘束禁止に関する指針を基に、常に確認している。具体例を出して、グレーゾーンも含めて、検証し、改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束禁止と同じように取り組んでいる。年2回以上の研修を行い、記録も残し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	やまぶきユニットの方、お一人、入居後に成年後見人を付けた方がいる。今後も制度を活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、まず、重要事項を説明し、質問には丁寧にお答えし、十分ご理解頂いた上で、契約書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、運営推進会議も開けないので、月に1回写真入りのお手紙などでご様子を報告しており、その時やそれ以外でも何かあった時は、ご連絡を取るようになっており、その機会にご要望も聞くようにしている。	運営推進会議の議事録は、家族に渡している。月1回のツクイさいたま岩槻のお便りには、写真を沢山載せ、喜ばれている。面会再開を望む声が多い。法人の家族アンケートがあり、意見や要望を汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開いており、職員の意見や提案を聞いている。また、雇用契約の更新時にも面談をし、意見などを聞いている。	月1回ミーティングが行われる。事前にフロアリーダーが職員の意見や要望を集約して、会議に臨んでいる。調理時間の変更等の業務改善も進んでいる。個人面談も行われ、意見や要望を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社が外部の業者に委託し、職場環境などのアンケート調査などもあり、無記名WEB回答で、本音を聞けるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月々の研修やそれ以外のコンテンツでもE-ケアラボを取り入れており、全職員の学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社が開催して、オンラインでの研修や講習会への参加の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント実施時に生活歴や習慣、好きな事、要望等をよくお聞きし、プランに取り入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、連絡を密にとり、不安や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とも話し合い、例えば訪問マッサージに来てもらい、機能訓練などもやってもらうなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物量、茶わん洗いなど、出来る事をやって頂き、役割を持って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会禁止の中でも、どうしても必要な時は、臨機応変に対応するなど、共に本人を支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、馴染みの場所にお連れすることは出来ないが、お友達から電話がありおつなぎして、楽しくお話している方もいる。また、お手紙のやり取りをしている方もいる。	利用者や職員も、地元の人が多く、馴染みの場所や名物の食べ物などの話題は尽きない。コロナ感染が下火の時は、知人、友人が訪れ、玄関先で談笑している。また、手紙の返事などのサポートもおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、一緒にレクリエーションをやったり出来るように支援している。隣の席同士の方で気が合い、仲良くしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かの時には連絡をとり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方に合わせ、意向を尊重している。その日の気分散歩に行くか行かないか決めたり、不定期な時間でも、コーヒーをお出ししたりしている。フロアにいる方も自分の部屋でゆっくりしている方もいる。	契約時、自宅を訪問して、本人や家族に、入居後どのように暮らしたいか確認している。日々の支援の中では、会話のなかで、希望や要望を汲み取っている。飲み物やおやつも選べるように、工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしで、朝はパンという方には、毎朝パンをお出しするなど、今までの暮らしを継続出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力に合わせて、茶わん洗いや洗濯物干しや洗濯物たたみなどをやって頂いていある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成する時には、看護師など他職種も含め十分にアセスメントし、ご家族にも希望を聞き、現状に即した計画書を作成している。	月1回ケアカンファレンスが開かれ計画作成者、看護師、所長、居室担当を中心に、アセスメントを基に打合せをおこなっている。変更点があれば、家族からも、意見を聞き、チームでケアプランを、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スコープ・オンラインというシステムにすべてのケアや情報を記録し、管理し、職員全員で共有し、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、柔軟に対応している。タバコをやめられない方は、タバコ。飼っている犬と一緒に暮らしたいという方にも前向きに検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などで、ご近所に野菜や花を頂いたり、交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医にかかっている方も、ご家族が今までの所にお連れしている方もいるが、連携をとり、適切な医療を受けている。	内科、皮膚科、精神科のあるクリニックと提携している。月2回の訪問診療に加え、希望者は、訪問歯科も受診できる。法人所属の看護師が定期的に来て、健康管理に努めている。夜間も提携クリニックが、24時間対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への連絡ノートがあり、情報や気づきを直接看護師へ伝えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院のソーシャルワーカーと密に連携をとり、早期の退院に向けて情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅クリニックが24時間対応なので、看取りもやっている。家族とも十分に話し合い、2名様の看取りを行った実績がある。	契約時に、終末期の対応について、詳細説明している。事業所で出来ること、出来ないことを話して、理解納得頂ければ、看取りをおこなっている。最初は、不安もあったが、ターミナル研修などを重ね、落ち着いて対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、訓練や研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難のための研修を行っている。隣がオーナーさん宅なので、何かの時にはご協力頂けるようになっている。	避難訓練は、年2回実施しており、玄関先まで避難誘導している。高台にあり、水害はない。自家発電機もある。自然災害マニュアルは完備し、備蓄品には、飲料水、乾パン、ヘルメット、衛生用品などがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お話する時は、必ず敬語を使い、人格を尊重した態度で接するようにしている。常に、優しい声がけをするようにしている。	書類は、鍵のかかるロッカー、パソコン、タブレットはパスワードで管理している。言葉使いは、敬語を使い、人格を尊重するように、努めている。また、トイレやお風呂の利用中は、ドア閉めを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で物事を進めず、自己決定して頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでその日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アマゾンで、ブレスレットやネックレスを買ったりして、おしゃれを楽しんでいる方もいる。また、ネイルアートなどもやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	両フロアにおいて、何人かの方が、準備や片付けに関わってくれている。取り分けしてくれたり、運んでくれたり、洗い物をしてくれたりしている。	調理は職員と利用者が役割分担で、野菜カット、盛り付け、テーブル拭きなど、おこなっている。行事食も管理栄養士指導の下で、正月のおせち料理など、楽しんでいる。また、家庭菜園の季節の野菜が食卓を彩る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量がオンラインシステムで記録されているので、それを確認し、足りない時は声がけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員にお声がけし、口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの定時誘導を心掛け、出来るだけトイレで排泄してもらえているようにしている。	タブレットを活用して、排尿、排便の時間、色、量等確認している。個々の時間に合わせてトイレ誘導しており、夜間は、2時間毎に、見回りをしながら、おこなっている。自立の人が多く、今はオムツ使用の人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オンラインシステムで、何日便が出ていないかも一目でわかるので、便秘がちな方には、ヨーグルトや牛乳をお勧めするなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間はなるべく希望を聞き、それに沿えるように支援している。	週2回時間を決めて、入浴している。本人の希望により、3回入る人もいる。入浴嫌いな人には、「お風呂」と言わない声掛けを工夫して誘導している。職員と1対1での会話が弾み、思いや願いが聞ける時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないとおっしゃるときは、温かいミルクをお出ししたり、ゆっくりお話をしたりして、安心して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、2名で確認し、飲み込みまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特別に食べたい物をお聞きした時は、職員が買って来ている。また、外食が出来ないので、リクエストにお応えした昼食などもお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、遠方へは難しいが、散歩は毎日行って、季節を感じて頂いている。	コロナ感染が下火の時は、ひまわり畑、コスモスなどの見学に出掛けていた。天気の良い日は、毎日近所を散歩していた。外出出来ない時は、室内で、テレビ体操、脳トレ体操、カラオケなど楽しみ、廊下をあるいて運動不足を補っている。	コロナが収束に向かったら、散歩はもとより花見など、季節を感じる遠出の企画を期待したい。利用者の要望を聞いて、個別の外出支援も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を安心のために持っている方もいる。コロナ禍が終われば、買い物の支援も行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したり、手紙のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具も長く座っていても疲れない椅子を使用しており、壁やテーブルなども、工夫し、快適に過ごせる空間を作っている。	リビングは、広く、明るい。中央に丸テーブルと四角いテーブルがあり、落ち着いた、ゆったりした雰囲気である。空調や加湿器も備え付けられている。壁には、レクリエーションで制作した、ひな人形が飾られている。掃除は、出来る人にお手伝いをお願いしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で、ゆったりマッサージチェアを利用する方もいる。気が合う方とお話したり、窓際で景色を見ながら、日向ぼっこをする方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具や必需品は、ご家族と相談しながら、用意している。家にある、使い慣れた物を持って来る場合が多い。	空調、ベッド、照明、カーテンは、備え付けられている。その他は、在宅の延長で、使い慣れた物、馴染みの物などを持ち込んでいる。家族の写真、テレビ、仏壇などを持ち込んでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯が終わったら、職員と一緒に干しに行くなど、安全に出来るようにしている。		